



2014FIM 世界選手権シリーズ第2戦

“コカ・コーラゼロ”鈴鹿8時間耐久ロードレース第37回大会

三重県・鈴鹿サーキット

2014年7月27日（日）決勝

観客動員数：111,000人（4日間合計）

最終ラップにポジションを上げ5位でフィニッシュ！

TOHO Racing with MORIWAKIとして3年目のチャレンジとなった2014年の鈴鹿8耐決勝は、スタートがディレイとなり、4度もセーフティーカーが入る大荒れのレース展開となった。

ウォーミングアップランを終え、後はスタートを待つだけという状況で雨のためにディレイ。その後、大雨が降り路面は一気にウエットとなる。天候の回復を待ち、予定よりも1時間5分遅れの12時35分にスタートが切られた。水しぶきを上げながら一斉に1コーナーを目指すマシンたち。好スタートを見せた山口は、S字区間でスルスルと前に出ていきトップに浮上！ オープニングラップをトップのまま戻ってくる。



その後、F. C. C. TSR Honda、MuSASi RT HARC-PRO. というHondaのトップチームにかわされるものの3番手をキープ。小林へとバトンタッチして行く。この時点で路面は乾いてきており、レインからスリックヘタイヤをチェンジ。その後、もう一度、雨が降り再びウエットとなるが、その後、天気は回復して行く。チームは、路面コンディションの状況を見て、周回数は前後したが、ほぼ予定通りにライダー交代を行っていった。

そしてレース中盤からは、鈴鹿レーシングとの5位争いを繰り広げていく。実は、木曜の段階で山口は、現状で3人のベストを出せば5位には、なれるとライダー同士で話しをしていた。國川のスティントでは、5番手に浮上するなど、ライダー交代のタイミングで抜きつ抜かれつを繰り返して行く。レース終盤になり、國川の2回目のスティントで5番手に浮上していたがセーフティーカーが入る。ここでセーフティーカーが解除になったところでルーティンのピットイン。山口が最後のスティントに出ていくが、その瞬間、再びセーフティーカーが入ったためピットロード出口でシグナルが赤になり止められてしまう。このため1分以上ロスしただけではなく、再び6番手にポジションを落としてしまう。そして、セーフティーカーが解除された時点で鈴鹿レーシングとの差は14秒だった。山口は周回毎に、その差を縮めて行き、ついにラスト2周で、そのテールを捕らえることに成功する。そしてラストラップに一度は前に出るものの、抜き返され迎えた最終シケイン。山口はブレーキング勝負で前に出ると、そのまま5位でゴール。ラストラップの大逆転でTOHO Racing with MORIWAKIの2014年鈴鹿8耐は、幕を閉じたのだった。

監督 福間勇二

「まずは、鈴鹿8時間耐久レースに参戦するにあたり、御支援、御協力頂きました全てのスポンサー様、応援してくださいました皆様に心より厚く御礼申し上げます。ライダー、メカニック、そして地元東広島の皆様とチーム一丸となり挑んだ今年の鈴鹿8耐で、トラブルもなく、そして最後まで決して諦めず完走し5位入賞することが出来ましたことを本当に嬉しく思います。これからも、チーム一同精一杯努力して参ります」

第1ライダー 國川浩道

「最後の山口選手の追い上げは、すごかったですし感動しました。一緒に8耐を戦うことができ、すごく光栄だと思いました。レースウィークに入ってから、事前テストのときとフィーリングが変わってしまい、うまく走ることができなかつたのですが決勝は、一番調子よく走ることができましたし、雨でも、いいペースを刻めました。毎晩遅くまで作業してくれたメカさんを始め、支えてくれたスタッフに感謝という言葉しかありませんね」

第2ライダー 山口辰也

「マシンのには、問題になっている部分を解決しようとチームスタッフ、KYBさんが本当に一生懸命取り組んでくれました。土曜日の時点で雨が降ればよくなる部分もあると話していましたが、ウエットでもドライでもレースウィークでは、一番いい状態で決勝レースを戦うことができました。最後のスティントは、暗闇の中、マイナス表示が出ていたので最後まで諦めずに全力で走りました。1周だけでしたがトップを走ることもできましたし、國川選手、小林選手も頑張ってくれましたし、現状ではベストが尽くせたと思います。応援していただいた全ての皆さんに感謝します」

第3ライダー 小林龍太

「最初のスティントは、山口選手が3番手で戻ってきたので、今まで味わったことのない緊張感でした。何とか山口選手との約束はクリアできたと思います。最後に、すごい走りを山口選手は、見せてくれましたし、鈴鹿8耐を、この様な環境で走らせてもらえた TOHO Racing with MORIWAKI に感謝したいですね。今年の8耐は、特に過酷だったと思います。その中をノントラブルで走り切れたことは、チーム力のおかげです。本当にありがとうございました」

チーフメカニック 戸井田剛

「スタートディレイから始まって難しいレースコンディションの中、ライダー3人とも上手く対応し良いペースで走行出来たので5位完走することができ良かったと思います。チームも難しいコンディションに対応し、トラブルもなくレースをすることができたので良かったと思っています」



株式会社 TOHO
TOHO Racing with MORIWAKI
担当：野口